



流星

第14号(OB会誌創刊号)



目次

題字 河村芳平先生
イラスト 伊東 (子44)

巻頭言 つれづれ自動車考—日本車	自動車部顧問 原田	2
自動車部の未来に向けて	自動車部主持 安倍	3
昨年度までの成績と14年度活動計画		3
OB会誌創刊にあたり	OB会会長代行 廣田	(電29) 4
追悼・喜多村広利氏	大庭	(キ21) 4
真那子晃一氏を偲ぶ…「一枚の寫眞」	紀田	(キ23) 5
地区報告1 「関東地区」報告	地区副幹事 川崎	(化32) 5
K I T への 想 い	OB会特別顧問 徳尾	6
43年入学・自動車部同期会類末記	鳥飼	(情47) 6
同期の友 寺田睦雄君の急逝を悼む	尾辻	(子57) 7
地区報告2 九州で秋にでも開催?	地区副幹事 斉藤	(鉦33) 7
地区報告3 中京地区OB会準備会開催予定	地区副幹事 原田	(機33) 8
報告「流星特別号」部史関連報告	編集・地区副幹事 嘉村	(化33) 8
部誌「流星」の歩みと年度役員		9
責善会自動車部員名簿、平成14年度		9
自動車部OB会名簿・役員・顧問名簿		10
写真・現在の部車・かつての部車		16

九州工業大学責善会自動車部
明専・九州工大自動車部OB会

つれづれ自動車考——日本車

責善会自動車部顧問 原田



今年3月退官された西川日出男教授に請われ、責善会自動車部の顧問を引き受けた。生来車は好きで、特に日本車とドイツ車の性能比較には強い興味を持っている。ここではこれまでの車との関わりについて、思いつままに述べてみる。

機械工学科に入学して熱力学(谷下一松)及び内燃機関(長尾不二夫)を習い、各種熱機関のP-V線図より熱効率を計算するのに興味を持った。Münchenのドイツ博物館に行くと、4気筒ガソリンエンジンを発明したNikolaus August OttoのViertaktverfahrenmotorが展示されているが、初めて見た時、熱効率計算を思い出し、懐かしかった。また、機械力学をならった際、シリンダ数と不釣り合いの関係に興味を持ったが、少し、難しくてよく理解できなかった。ダイハツシャレードが発売された時は、エンジンのBalancingが妙に気になった。

車の新しい技術との遭遇については、厳しい排ガス規制法案マスキーをクリアするために、ホンダが開発した、副渦流室を持つCVCCエンジン、マツダのロータリーエンジン、ホンダの背高ノッポの車City、ダイハツの3気筒エンジン搭載シャレード、三菱のバジェロ、日産マーチ、トヨタセルシオ、三菱直噴のGDI、日産+日本精工のCVT、トヨタハイブリッド車プリウス、外車では自動車部品の高リサイクル率設計実現(Benz、BMW)BMWの水素燃料車、VWのリッターカー(100km/l)、カナダBallard社の燃料電池、等々、我が国にMotorizationが起こってから過去30年有余の技術進歩には目を見張るものがある。

過去10数年間、自動車部品に使われている球状黒鉛鑄鉄(ダクタイル鑄鉄)やプラスチック関係の強度評価の研究を行ってきた。究極目的は自動車の軽量化である。プラスチックはリサイクル問題で自動車への多用展開が一時頓挫したかに見えたが、最近では各社ともほぼ100%リサイクル設計を実現していることもあって、プラスチックは復活の兆しを示している。BMWがintakemanifoldに初めて超耐熱プラスチックを用いたのは数年前の話である。現在の関連研究はハイブリッド車、燃料電池、off-set、full-flat lateral collision(側面衝突)に対する安全性確保、軽量化用超微細超鉄鋼(結晶粒径1μm程度、引張強さ8000~1200MPa、通常の2倍)、及びETC関連である。

不況の最中、我が国の自動車メーカーは競争力が強く、特に米国でのシェアを拡大して、30%を越す勢いで、

またまた日本たたきが起こるのではないかと懸念される。米国が航空、情報、バイオでNo.1に君臨することを続けるなら、日本も自動車産業をcore competenceとして守るべきである。昭和55年縁あって本学に赴任した時、もっとも驚いたのは、機械系学生の自動車関連メーカーへの就職希望の高さ(50%を超えていた?)であった。現在は反対に車と言えば2輪車で自動車に関心をよせる学生は決定的に少なくなっている。時代が変わったことは確かだが、少し寂しい。自動車産業を支えるためにももう少し目を向けて欲しい。

最後に、家族と過ごしたドイツ生活の思い出を少し。1979/2-1980/9にHumboldt財団の奨学金をもらいStuttgart大学に留学した。StuttgartはDaimler Benz、Porsche、Boschの本社のあるドイツ南部の有数の工業都市である。Autobahnを走り、VW Golfが180~200km/hで疾走するのを見てその安定性にびっくりした。また、Benz、Porsche、BMWが追越し車線を200~220km/hで走行するのを見、また、200km/hから急ブレーキをかけスピンをせずに安全に停止するのにもどぎもを抜かれた。普通のドイツ人が日曜大工で10万km走行ごとに自分でエンジンを交換(Motoraustausch)している光景をよく見た。国内ではあまり経験できないことをいろいろ経験、見聞した。

現在BMW528に乗っているが、車の基本である走る、止まる、乗り心地(特にサスペンション)、安全性(よく言われる剛性)等々について、国産車とドイツ車を比較すると、多少のドイツかぶれを割り引いて考えたとしても、内装や付帯設備で日本車が優っているが基本性能についてはまだまだドイツ車に一日の長がある。

Benz、Porsche、及びMünchenのBMWの工場には何回か見学に行った。驚いたことを2つ。Benzに行った時、「我が社は年産最大50万台で、トヨタや日産のようにたくさんは造らない」と当時技術者が胸を張って言っていた。時が経ち、CやAシリーズを出すようになってからは大衆化路線である。低級車から高級車まで、手を広げた分、Benzはだめになり、トヨタのCelsiorはBenz Sを超えたと言われる。しかし、よく見ると、世界をリードするようなKey Technologyに関しては今しばらく先方がトップランナーであろう。Porscheに見学に行ったのは10年程前であるがno-Beltconveyerで作業者は手押し車を利用して組み立てていた。生産台数が少ないとは言え、これを見て、何と生産の近代化が遅れた会社

だと思ったが、実は後年分かったことごとだが、私の認識不足だった。すなわち、Volvo も採用している最も human friendly な生産方式の走りで、我が国でも日産九州工場やホンダ鈴鹿工場で採用され、現在ではポピュラーな方式である。

みなさん、車の見えない部分についてお互いいろいろ

勉強しましょう。

自動車部新顧問プロフィール

'69.3 神戸大学院修士終了(機械)

'69~'80 大阪大学工学部助手、講師

'88~九州工業大学教授(工学部機械知能)

専門:材料強度学

— 主将挨拶 —

自動車部の未来に向けて

責善会自動車部主将 安倍

先輩のかたがたにおかれましては、時下ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

我々、現自動車部は部員十五名で日々活動しております。内訳は、六回生三名、五回生三名、四回生一名、三回生一名、二回生七名です。近年、部員数の減少に頭を抱えておりましたが、昨年七名の部員を迎えることができました。この勢いを止めることのないよう、新入部員の勧誘活動を行っております。

OB会誌創刊のお知らせを受け、急遽資料の収集に取り組みましたが、現在の自動車部が全くと言っていいほど「過去の情報を残していないものだな」と痛感しました。

部誌「流星」も時間と経費の壁に遮られ数年間と絶えています。今回、尾辻先生のご協力を得て、来年にも発行したいと計画を立てていたところ、嘉村先輩よりOB会誌と部誌を共同で発行してはとのご提案があり、このたびのはこびとなりました。

今後は自動車部の役員・活動記録・卒業生などの情報をこと細かく残すように、努めたいと思います。

今年度の役員は別記の通りですが、年間行事は KIT ラリー競技会、ラリー・ダートラ・ジムカーナ等競技への参加、工大祭の三本柱を中心に行ないます。

ラリー開催については、ACK の方々と協力しスプリングラリーの開催の手伝いをしています。また来年第40回を迎える「KIT NIGHT RALLY」はここ数年、ノンタイトルの競技として開催しておりましたが、昨年からは九州ジュニア&フレッシュマンラリーシリーズの一戦として開催できるようになりました。

自動車競技への参加については、競技用の部車がなかったため、最近では個人での出場がほとんどでした。しかし、現在は部車(K11型マーチ:ダートトライアル車両)を製作中で、数年ぶりに団体戦へ出場予定です。

工大祭では、ここ数年は毎年「たこ焼き」をやっています。期間中はひたすらにたこ焼きを焼いております。味はなかなかの好評で毎年食べに来ていただいているお客さんもいるほどです。期間中近くへお越しの際は、ぜひともお寄り下さい。

これからも、日々の活動を通じ、整備技術・運転技術の向上に励み、部員一丸となって伝統ある自動車部を受け継いでいきたいと思っております。

最後になりましたが、今後の「流星」にご意見・ご要望など部へお寄せいただければ幸いです。

その他のご寄稿もお待ちいたしております。

— 報 告 —

平成11.12.13年度成績と本年度活動計画

平成11.12.13年度成績

11年5月	RTR-Kフレッシュマンラリー	優勝
12年2月	大学対抗ダートTr.大会	団体優勝
5月	〃	団体4位
9月	Jr.&F ジムカーナ Sr.#9	F1 1位
13年3月	Jr.&F ジムカーナ Sr.#3	F2 2位
9月	ACK COSMOS RALLY	F 1位
年間	Jr.&F ジムカーナ Sr.	F2 1・3位

年間 Jr.&F ラリーシリーズ F(ナビ) 2位

平成14年度年間行事予定

4月	入学式・部員勧誘
5/18~19	ACK COSMOS RALLY
/26	大学対抗ダートラ
/31	新入生歓迎コンパ
11月	KIT NIGHT RALLY・工大祭
15年3月	追出しコンパ・卒業式

OB会誌創刊にあたり

OB会会長代行 廣田 (電29)

OB会会長の喜多村広利先輩が突然亡くなられたと伺いショックを受けましたが、さらに真那子晃一先輩の訃報に接し、実に残念としか言いようがありません。

私共の頃の自動車部はガソリンが無い、部品も無い、部車は中古で走る時間より整備する時間のほうが多い時代でしたから、喜多村石油のアルバイトで貴重なガソリンを荷役代の代りとしてドラム缶で貰って帰った話や、横転事故でキャビネットを破損し喜多村ボデーで修復した話など喜多村先輩にまつわる数々を同室の先輩からよく聞かされたものです。

真那子先輩についても、後続車のエンジンの音だけで車種をびたりと当てたという伝説の持ち主で、逝かれるのはまだ早すぎるとの思いでいっぱいです。

先般、嘉村剛さんをはじめとする方々のご苦勞で立派な自動車部史が出来上がりました。これを見て改めて自動車部時代を懐かしく思い、また伝統ある自動車部だと思ひ直しました。

私が九州工大に入学したのが昭和25年(朝鮮動乱が始まった年)でしたが、これからは車の時代がやってくる、自動車の勉強ぐらいしてても悪くない、運転免許も取ればいい位の気持ちで、自動車部に入部したのですが、整備や修理に明け暮れ、部費ガソリン代のためのアルバイトにも精を出した部活動でした。

卒業後、当時の国鉄に就職しましたが、特に現場の勤務では自動車部にいたことが、技術のみならず色々な意味でおおいにプラスになりました。

世の中が昨今のこれほどまでの車社会に発展するとは思いませんでした。

時代と共に部活動の内容やテーマも変わっていくのは当然で、自動車部のOBと一口に言っても、整備やアルバイトにと車庫で真っ黒になって苦樂を共にしたグループ(昭和40年以前)と、やがて運転免許を持つのが当たり前の時代になっても、自動車部の存在意義を確かめながらスポーツとしての活動をエンジョイし運転技術の研鑽や大会準備に多くの時間を費やしたグループ(その後から現在まで)とでは、自動車部員としての意識や連帯感にもおのずから差があるのはやむを得ない事でしょう。これらのOB仲間が、一緒に全く同じ話題で会することはなかなか難しく、地区のOB会がなかなか活発化しないのもその辺に原因があると思われまます。

然しながら、伝統ある自動車部のOB会をそれなりの存在意義のあるものにしたく、会合にしても、意欲あるOBが同期会の核となって地域を越えて集まり、その会合に開催地の「ゼネレーションが違っても」のOBも参加するといった方法など、色々検討の余地があるのではないのでしょうか。

OBの皆様も九州工大自動車部で過ごした4年有余が必ず何らかの形でその後の人生に意味を持っている事と思います。OB会誌がかっての苦樂の思い出を語り合い、自動車部OBとしての連帯を深め、また現役の自動車部員を元気づける手段となることができればと期待しています。

顧問の先生が新しくなられたと伺っています。何かと大変だとは思いますが工学部としての自動車部らしい、また時代にあった活動が出来るようご指導いただきたいと願っています。

自動車部の今後ますますの発展を祈っております。

— OB会 —

追悼・喜多村広利氏

大庭 (キ21)

下川君(キ21)から喜多村君の訃報があったのは、昨年五月二十九日でした。びっくりして通夜に駆けつけましたが、奥様の話しによると、死因は脳腫瘍とのことでした。最後まで意識がしっかりしていて、苦しまずに過ごしたそうですが、容態が急変して亡くなったとのことでした。

実は、その一ヶ月程前に、私は博多の娘の家へ行ったとき、久しぶりに彼と下川君と三人で酒でも飲もうかと電話をしたら、奥さんが出てこられ「検査で入院しています」と言われたので私は何気なく、年も年だし「心臓でも

悪いのですか」と尋ねると、「いいえ、一寸検査だけです」と軽く言われたのであまり気かけず、そのまましておりました。

五月になって今一度電話をしてみようと思い乍ら、ついつい日を過ごしているうちに、この訃報です。今にして思えば早く見舞いに行けばよかったと、悔やまれます。

思い起こして見ると、戦争が激化してきた昭和十九年学徒動員が始まりましたが、我々は工学系の学校なので兵隊としての動員はまぬがれました。そのかわり軍需工場

で生産要員として働くことになりました。それは丁度、三年生になったときでした。

しかし喜多村君、今井君達は運転免許を持っていたので、福岡の西戸崎でガolin輸送隊に配属されていました。

二十年四月に三年生になったので、学校に全員戻されて、戦争の最中ながら普通の授業を受けることが出来ました。

そして終戦となり翌二十一年三月に無事卒業し彼は家業の石油販売会社に勤め、厳格な父君に後継者教育を受けておりました。

私は九大に進学した後、西鉄に入社しましたが、その後もずっと交友は続きました。

彼は非常に真面目で正義感が強く、実直な人柄でしたが、酒豪で、飲んだら愉快になって、三人でよく飲み

歩いたものです。体格も立派でしたので、こんなに早く亡くなるとは考えず、いつでも会えると思っておりましたのに、残念です。最後に会ったのが、平成十二年の夏の同窓会のときでした。思い出はつきませんが、彼の冥福と、ご家族のご多幸を祈り、筆をとじます。



在りし日の喜多村(右)・真那子両先輩(H10.8)

—OB会—

真那子 氏を偲ぶ…「一枚の寫眞」

紀田 (キ23)

ここに一枚のセピア色の肖像寫眞がある。明専受験のときのものだろう。その主は真那子氏、丸坊主の童顔。左胸に白布の名札が、きっちりと縫い着けられている。服はカーキ色の着だ。何故、私の手許にあるのか。記憶は定かでないが、彼とは、そんな仲であったのだ。

昭和二十一年四月、忘身寮の我が一室に、可愛い新入生が入ってきた。この人が将来、自動車部の確成になるとは、豫測も出来なかった。小生生意氣にも、自動車部への入部を得々と奨めた。案外即答では無かったのかも知れぬ。しかし、これだけでも、私は部へ、ささやかな貢献が出来たと考える。

彼の自動車への、思い入れと貢献は大變な物だった。これ等は、部史『流星』に詳しい。その頃、私へ今井先輩から、生まれて始めて、人前での講義を命ぜられた。このド素人の若きエンジニアに「新人の部員へ自動車エンジンの耻をせよ」と、今井部長の

愛の鞭だった。如何に狼狽したことが、真那子氏が一番よく知っている。

寫眞といえば、當時の自動車部の小さな寫眞が數十枚もある。これは、田邊先輩の勞作である。しかし、真那子氏のは殆ど見つからない。これも七不思議のひとつだ。たった一枚の貴重なものは、部史の60ページにある。故部坂先輩と共に、颯爽として特星號上に立つ真那子主。何故、シートを握りしめているのだろうか。このシーンは今でも強烈である。

平成十年三月、嘉村幹事より、OB會へ出席のお誘いがあった。残念乍ら、都合が付かなかった。無理して、参加していたら、五拾年振りに、お会い出来たのに。返す返すも残念の極みである。真那子さんは、いつまでも私にとっては、童顔の儘の上君子である。

晃一さん、安らかに車下でお眠み下さい。

各地でのOB会(その1)

『関東地区』の報告

副幹事 川崎 (化32)

関東地区でのOB会は平成11年2月20日に開催された懇親会(新庄先生をお迎えして27名参加の盛会)で「これからは、年1度は開催したい」と言う声も聞かれたのですが、それ以降現在まで殆ど冬眠状態にあります。みんな誰かが言い出すのを待っているかのようです。この3月で小生の東京支部長の任も予定通り終了したのですが

まだ何かと雑用にかまけて「言い出しっぺ」になれないで居ります。もう少し落ち着いたら、皆さんに声を掛けるか、或いは、期待の後輩でもそそのかして見ようかと思っています。

我こそはと声を挙げて頂ける有望なOBの出現を待望しています。協力を惜しみませんのでよろしく。

K I T への 想 い

自動車部OB会特別顧問 徳尾

“事故を起こしてしまいました”

私自身も、かつて、そうであったような狼狽した連絡を学生から受ける。そうした時、なんの戸惑いもなく、的確に現場での対応の手段を説明して、翌日には保険処理の段取りまで取り付けてあげる。

これが仕事の場合では当然の事だが、学生相手の場合は何か違った物が私を動かしてしまう、必要以上の心労をさせたくない、まして郷里にまで及ぶ心配はさせたくない。

幸いにして駐車中の車に誤って接触した程度で大事に至らずに片付いたようだ。

“〇〇さんの連絡先わかりませんか？”

最近ご無沙汰の卒業生から、〇〇先輩の連絡先を電話で尋ねられて、つい〇〇君は卒業以来全く音信不通、俺には分からんね。と答えたものの、私の知らない何か大事な仕事のつながりを探しているのではと思い直して、記憶をたどり卒業して就職した会社と当時居住していた独身寮を思い出したが、その後結婚したとの噂も聞いていたので、「・会社から寮にでも問い合わせて見たらどうかね」で電話を終わった。

折角電話を呉れたのに、少し冷たかったかな、と思つ

各地でのOB会（その2）

43年入学自動車部同期会顛末記

鳥飼 (制43)

昭和43年に入学し、自動車部で共に過ごした7名（川越、浜田、平松、古本、村上、森田、鳥飼）が平松氏の発案により、卒業30年振りに一堂に会した。

逢った瞬間から30年前にタイムスリップ。俺・お前に戻れたのも、ラリー、合宿、遠征、飲み会と青春の貴重な時間を共有した仲間だからこそであろう。

5/11(土)は母校、下宿跡、飲み屋と昔の記憶をたどって思い出の地を訪ねると共に、お世話になった徳尾モータースで三郎さんに再会する事もできた。

夜はマリントラス芦屋に宿泊し、夜遅くまで痛飲・昔話に花が咲いたのは言うまでもない。

5/12(日)は門司港レトロ／下関と観光し後日の再会を約して別れた。

次回は今秋11月、女房同伴で、上蒲刈島（広島県・平松氏の実家）でみかん狩りをする計画である。

たりもする。

“三郎さん久しぶりです。少しも変わりませぬね”

いやいや、その中の一人から三郎さんも老けたねと言われたばかりだゾ。

30年振りの再会とかで自動車部のOB同期会の際に立ち寄ってくれた面々、楽しかった、一人一人の思い出が確実によみがえって、それぞれの傑出した話題を次々と思い出しては大笑い、ほんの僅かな時間だったがワンボックスのレンタカーに乗り込んだ皆と手を振りながら健康な再会を約して見送った光景は忘れることは出来ない。

今年度は自動車部に8名の新人が入部したと聞いています。とにかく楽しく過ごしてくれることを願っているし、それぞれ何かを見つけてくれればと期待しています。久しぶりの増員で今後のますますの発展につながるよう奮ながら折っています。

久しぶりの「流星特別号」発刊、そして今回「流星14号」の発行とOB会幹事の大変なご尽力に敬意を表したいと思います。ご苦労様です。以来、OB会の確固たる存在を再確認させて戴きました。

今後の益々の発展とご活躍を祈念しています。

（徳尾モータース社長・JMRC九州地区協 理事長）



徳尾モータース社長・三郎さんを囲んで

同期の友 寺田睦雄君の急逝を悼む

尾辻 (子57)



故寺田睦雄君

私と同期で昭和55年度自動車部副将を務めた寺田睦雄君(機Ⅱ57卒)が昨年12月に過労のために急逝されました。あまりにも若すぎる逝去にただただ呆然とするばかりです。奥様の寺田敦子様よりいただいた寒中お見舞いで悲劇を知り、3月初旬に同期の白水孝久君(子57卒、昭和55年度整備委員長)と岡山のご自宅へ伺い、ご霊前に手を合わせて故人のご冥福をお祈りいたしました。

寺田睦雄君は県立門司高等学校の出身で、昭和53年4月、機械第二工学科への入学と同時に自動車部に入部しました。彼も私も自動車免許を格安で取れることが魅力で入部した多くの入部生の一人でした。リーゼント気味のヘアにトラッドかつ気さくな雰囲気は彼の持ち味で、緻密なドライビングテクニックが印象的でした。次第に自動車部の活動にのめり込んでゆき、卒業までの4年間を自動車部で共に過ごしました。大学を卒業した昭和57年、彼は直ちに住友電気工業(株)に入社しました。その後、結婚と同時に初任地大阪から転勤したのが岡山でした。その岡山を起点としてほぼ2年ごとに転勤を繰り返していました。

私は神奈川県に勤務していましたので、卒業後の親交は年賀状のやり取りに留まっていたのですが、彼が横浜勤務となった10年ほど前に、転勤の知らせを受けて、早速横浜で卒業以来の再開を促しました。時間を忘れて懐かしい会話が弾んだことを昨日のこのように憶えています。

彼はさらに韓国、東京と転勤を重ね、平成12年4月に古巣の岡山へ戻りました。奥様よりお伺いしたのですが、岡山への転勤後は所属の部門が多忙なのに加えて職種が変わったことも重なって、数ヶ月の間、休日もなく、未明に帰宅して早朝出社という過激な勤務が続いたそうです。居眠り運転だけがとにかく心配だったと奥様は当時を振り返られました。そのような激務の後に、悲劇が起こったとのことです。平成12年10月に自宅で倒れ、意識が戻らぬまま植物状態で約1年間の闘病が続き、遂に帰らぬ人となってしまいました。意識が戻ることもなかつ

た寺田君が目を開じたまま時として涙することがあったそうです。寺田君自身もきっと無念であったに違いありません。

この悲しい出来事を契機に、職場では過剰勤務の実態が問題となり、休日出勤や深夜勤務が厳しく管理・制限されるようになったとのことです。寺田君の尊い生命が新たな悲劇を抑止する改革の原動力となったことはせめてもの救いです。会社側も寺田君の急逝を労災として認め、国に申請中とのことです。しかし、出社/返社時刻の記録がなく勤務時間を証明することが困難で、未だ労災認定が下りていないそうです。残る頼りは職場の同僚の方々の証言だけで、労災認定の見通しが立たない状況を力なくお話しされました。まだ小学生の小さい二人のお子様を抱えて悲しみを乗り越えていかねばならない困難な状況に直面する中で、奥様のご心労はいかばかりかと心が痛みます。どうかご遺族の皆様の将来がご安寧でありますようにと祈らずにはおれません。

最後になりましたが、同期自動車部員を代表してご遺族の皆様にご心より哀悼の意を表しますと共に故寺田睦雄君のご冥福を心よりお祈り申し上げます。(昭和55年度主幹) 合掌

自動車部で寝食を共にした同期生の一人として残されたご家族のために何かできることは、との思いで当時の自動車部部長であられた藤原元一先生、岡山在住の嘉村剛先輩(カ33卒)にご相談申し上げました。多くの建設的なご教示とご助言をいただきました結果、本OB会誌を通じて、故寺田睦雄君への弔慰を募ることといたしました。趣旨にご賛同いただけます方は、励ましのお言葉等をお寄せいただければ幸いです。小生が幹事役として責任を持って取りまとめの上、ご遺族へお届けしたいと存じます。先輩、同輩、後輩の皆様方、何卒ご高配賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

連絡先

九州工業大学情報工学部 制御システム工学科
助教授 尾辻

各地でのOB会(その3)

九州で秋にでも開催?

地区副幹事 斉藤 (鉦33)

九州地区OB会について記事を送るようにOB会の編集者から連絡があったのは3月18日であった。

今のところ特にOB会開催の計画もないのでその旨連絡したが、計画だけでもいいから送ってもらえないかと言

うことであつた。

OB会と言うほどのものではないが、岡山の嘉村氏(化33)が九州地区に立ち寄ると、前田氏(鉦32)や信国氏(鉦35)などに声を掛け一杯飲んで昔話などしたことはあるがOB会と言えるものではない。

九州地区はOBも一番多いので近い内に何かの形で

開催したいが、中四国地区のOBからも、もし開くときは合同で開きたいとも言われているので、近い内に北九州のどこかで、大会に準ずるOB会を、新顧問先生や顧問経験先生さらに現役の自動車部員も含めてのOB会を開催したい。

各地の幹事各位とも相談の上また報告します。

各地でのOB会(その4)

中京地区OB会準備会開催予定

地区副幹事 原田 (機33)

OB会誌を発行するので地区OB会の記事を送れと、突然編集担当者からいわれあわてた。平成10年月6日、名古屋グランドホテルで9人集まって以来OB会など開かれていない。

とりあえず若手のOBに声を掛け近く準備会など持とうということになった。

電話で他の地区の幹事、副幹事に聞いてみたがどこも同じようでこの手のOB会がなかなかまとめるに言うことがよくわかった。

この地区は比較的自動車産業も多く、工大OBも多いが以外と自動車部出身者が少ないこともあらためて知った。近く詳報を送る予定。

一 報 告

「流星特別号」部史関連報告

編集・地区副幹事 嘉村 (化33)

概要: B5 192ページ 上製本 発注300冊+予備9冊
発送数 301冊(謹呈32冊を含む)
宛名不明で返送 22冊 その後の発送13冊
現在残数12冊(ご希望の方は申しつけ下さい)

謹呈: 細川前学長 母校図書館 明専会及正田会長
伊藤 氏 新莊、勝原、藤原、大西、加藤先生
西川顧問 綿貫 氏 小山田 氏 大庭 氏
徳尾 氏 山本 氏 佐武夫人 鳳龍クラブ
馬場 氏 責善会自動車部(複数)原田新顧問

収支計算書 12.5.20

収入の部	支出の部
部史頒布代(158冊) 喜多村会長	部史印刷製本代
	発送経費(謹呈を含む) 282冊
	アンケート・校正 原稿返却 等切手代 (コインショップ切手) 受取人払い振込手数料
座談会、OB会でのカンパ	(版下、取材経費含まず)
小計	小計
赤字	
合計	合計

ご協力一覧(敬称略) 13,000: 笠原
10,000: 紀田 川村 安永 新開 真那子
6,000: 後藤 5,000: 坂本 坂井
佐伯 板井 山口 犬塚 鞍馬
吉武 木島 信国 八木 田中
近藤 渡辺博孝 尾辻 4,500: 石飛
藏満 その他の頒布代ご協力を戴いた方は名簿欄に○印をつけさせていただきました。

お願い: 今後も部誌、OB会誌「流星」を続けて発行したいと思いますので、OB会費として2年分1,000円(14、15年分)をお振り込み頂けないでしょうか。また前回記念特別号の振り込みをご都合でされていない方は恐縮ですが2,000円を併せて振り込みお願いします。又手違いで特別号が届いていない方はお知らせ下さい。

自動車部(現役)へのカンパ、並びに寺田陸雄様ご遺族へのお志しも同用紙で受け付けております。通信欄に必ず目的をお書き込み下さい。

部誌「流星」の歩みと年度役員（練習担当欄は後年のラリー、フィギュアー、ダートを含む）

号/発行	年度・監督	主将	副将	会計	書記	整備	練習	OB担当	部誌	顧問先生
創刊号40.12	40 加藤	尾崎	天野	市丸・伊藤	芳賀	大本・山本・山根	浜本・宇塚	木庭	市丸	川村
2号 41.11	41 尾崎	木庭	伊藤・伊東	山本・中島	伊東	山根・田中	宇塚	中島・吉野	市丸	中田
3号 43.3	42 木庭	伊東	掛水・松原	水崎・芦野	高田	藤田・田中	松原	井上・八木	山本	〃
4号 44.3	43 伊東	田中	八木	田中・八木	坂本	釘宮・安部	山本	八木・山本	柴田	〃
5号 45.3	44 田中	山本	安部・村上	細川	檜原・牛島	森田・浜田	中野古河	川越日隅	新開・古本	藤原
6号 46.3	45 山本	川越	牛島・古本	森田	浜田川越	浜田・日隅	浜田・中島	鳥飼・中島・山田		〃
	46	時松	大庭・泡田	長尾	刀禰	井上・神郷	小泉・久保	山地	星・中島	〃
7号 47.7	47 時松	河野	佐藤・宮本	山崎	刀禰	近藤・堀川	畑中	山崎・刀禰	刀禰	〃
	48 (遠征隊)	隊長河野	副田中	会計黒瀬	宿泊首藤	記録佐伯	写真刀禰			〃
8号 49.6	49 田中	坂井	武地・高橋	本吉	白倉					〃
	50 (遠征隊)	隊長坂井	副房前	会計安永	宿泊嶋田	車両野瀬	写真江頭	コース永田		〃
	51 (遠征隊)	隊長安永	副八木	会計諸橋	記録潮崎	車両江頭	写真西原			〃
9号 52.11	52 八木	早田	近藤・木場	舛重	網田	山下	坂田・楨本	石野田・帆足	帆足	〃
	53 早田	大原	松元・光成	孝橋・岩尾	中村	島原	太田・福川	淵上・太田		〃
10号 55.2	54 大原	高須賀	藤本・須藤	武藤	島村	山口	三原	石松・山本		〃
	55 高須賀	尾辻	寺田・畑中	大野	中村	白水	川村・浦田	阿部・小野		〃
	56 尾辻	高橋	大井・平瀬	津曲	前田	森	平瀬・長沼	小川・広田		〃
	57 高橋	那須	井上・近藤	長木	近藤	山本	長木・友田			〃
	58 那須	中村(一瀬*)	福島・山田	小林	石井	諸岡(石井*)	山田・一瀬	諸岡		〃
	59	山田	諸岡・石井	小林	福島	一瀬	諸岡・中村	諸岡		大西
11号 60.12	60 中村	生越	松原・近藤	三角	三好	福田	近藤・柿木	小嶺	真島	〃
	61	山下	藤井	坂田	御領	永富	元木・坂口	小川		〃
	62	藤島	山崎・高安	河野	永淵	城戸	谷口	今泉		〃
	63	林		今泉	渡辺		家守			〃
	H1	須賀		竹下	内野		福田	森		〃
12号 H2.	2	松尾	白石・山口	吉住	紙谷	山根	山本	公山	谷尾	〃
	3									〃
	4									〃
	5									〃
	6									加藤
	7 山本	遠山			鈴木		(ラ)森若			〃
	8 遠山	北野	小早川		藤井		(ラ)中村			〃
	9 北野	井出	岩本		中本	崎間	(ラ)岩本			〃
	10 井出	賀村			中本	柴田	(ラ)高橋			〃
部史11.11	11 賀村	安倍			安倍(満)	松本	(ラ)山之内		渡辺	西川
	12 安倍	石塚			森	西本	(ラ)石塚		西本	〃
	13 石塚	犬丸			安倍(俊)		(ラ)石塚			〃
14号 14.7	14 犬丸	安倍			安倍(俊)		(ラ)犬丸			原田

* 58年度括弧内は後期役員 お願い:役員名の空欄について、御存知の方はご一報下さい。

責善会自動車部部員名簿 (平成14年6月現在)

氏名	学部・年	出身校	氏名	学部年	出身校	氏名	学部年	出身校
主将 安倍	電気 3	興香住ヶ丘	森	機械 M1	県新見高	井上	機械1	県春日高
会計 〃			村上	機械2	県小倉高	長谷川	機械1	県光陵高
監督 犬丸	機械 3	県香椎高	松原	機械2	久留米工付	濱崎	機械1	熊本真和
ラリー 〃			田口	機械2	県口加高	原	機械1	県鳥栖高
松本	機械 M1	県済々黷	西野	機械2	県松山南	間平	機械1	県米子西
山之内	機械 M2	県加世田	西田	機械2	県八代高	富永	電気1	県長崎北
渡辺	制シ M2	県筑紫ヶ丘	桜井	電気2	県鹿児島中	石丸	機械1	
石塚	機械 4	県甲南	日高	物質2	創成館高			
西本	物質 3	県長崎東	石川	機械1	昭和薬付			

自動車部OB会名簿

科	年	氏名	郵便番号	住 所	電話番号
キ	17	豊田			
キ	18	芳賀			
キ	18	馬場			
キ	18	山本			
キ	19	佐野			
テ	19	山本			
キ	20	星子			
テ	20	平位			
コ	21	渡辺			
キ	22	上妻			
キ	22	田辺			
テ	22	立松			
ヤ	22	石飛			
キ	23	大田			
キ	23	大野			
キ	23	紀田			
キ	23	久保			
キ	23	坂本			
キ	23	舛谷			
カ	23	青木			
テ	24	森山			
キ	25	島崎			
キ	25	白石			
キ	25	中野			
キ	25	松尾			
キ	25	溝口			
テ	25	別所			
コ	26	松田			
キ	26	後藤			
キ	26	塚田			
キ	26	窪山			
テ	26	川崎			
鉦	28	後藤			
機	28	山田			
冶	28	島			
機	29	城			
機	29	山田			
電	29	廣田			
鉦	30	中島			
鉦	30	渡辺			
機	31	河相			
機	31	古場			
鉦	31	藏満			
機	32	前田			
機	32	楠田			
電	32	安光			
冶	32	笠原			
化	32	川崎			
化	32	丸山			
鉦	33	斉藤			
機	33	池田			
機	33	小堀			
機	33	中村			
機	33	原田			

科	年	氏名	郵便番号	住	所	電話番号
機	33	古屋				
電	33	川村				
電	33	松吉				
治	33	久保田				
化	33	嘉村				
化	33	林田				
機	34	塩谷				
機	34	富田				
化	34	白橋				
鈦	35	信国				
機	35	進藤				
化	35	本多				
化	35	山口				
鈦	36	香月				
機	36	飯田				
機	36	木村				
機	36	佐伯				
機	36	向田				
電	36	谷岡				
電	36	久富				
機	37	木島				
機	37	倉益				
電	37	小野				
電	37	木村				
治	37	門司				
化	37	山田				
機	38	野口				
電	38	犬塚				
電	38	栗本				
電	38	高橋				
電	38	益田				
化	38	増田				
化	38	花田				
鈦	39	吉武				
機	39	砂本				
機	39	常富				
機	39	友永				
機	39	中原				
機	39	三隅				
機	39	宮崎				
機	39	横田				
機	39	米倉				
電	39	田中				
治	39	小宮				
化	39	浜田				
機 ²	40	大庭				
電	40	石原				
電	40	橋				
化	40	梅山				
制	40	木田				
機	41	六代				
金	41	金児				
金	41	甲村				
電	42	山田				
		芳賀				

科	年	氏名	郵便番号	住	所	電話番号
化	42	尾崎				
制	42	市丸				
開	43	伊藤				
機	43	木庭				
電	43	宇塚				
電	43	長澤				
金	43	山本				
金	43	中島				
化	43	高崎				
制	43	森永				
機	44	山根				
機	44	小笠原				
機	44	掛水				
機	44	鶴長				
機	44	松原				
電	44	渡辺				
子	44	熊本				
開	45	伊東				
機	45	八木				
化	45	釘宮				
化	45	柴田				
子	45	田中				
機	46	坂本				
機	46	佐藤				
機	46	檜原				
電	46	山本				
電	46	新開				
金	46	古河				
金	46	鞍馬				
制	46	福永				
子	46	野見山				
子	46	中野				
化	47	細川				
制	47	川越				
機	47	森田				
機	48	鳥飼				
機	48	長尾				
金	48	浜田				
金	48	井上				
加	48	大庭				
制	48	高見				
子	48	泡田				
機	48	小泉				
機	49	平松				
機	49	近藤				
機	49	時松				
機	49	堀川				
電	49	山地				
電	49	佐藤				
化	49	山崎				
制	49	刀禰				
開	50	河野				
機	50	吉川				
機	50	牛島				
機	50	佐伯				

科	年	氏名	郵便番号	住 所	電話番号
機	50	田中			
機	50	溝尻			
金	50	鳥越			
加	50	首藤			
加	50	中西			
化	50	畑中			
制	50	西			
子	50	浅野			
情	50	晴田			
機	51	高橋			
加	51	白倉			
開	52	松本			
開	52	的場			
機	52	石田			
機	52	坂井			
機	52	中野			
金	52	嶋田			
加	52	板井			
子	52	安永			
金	53	八木			
子	53	政近			
情	53	潮崎			
開	54	國栖			
機	54	三宝			
機	54	楨本			
機	54	桥重			
機	54	山下			
化	54	四辻			
制	54	近藤			
制	54	西原			
子	54	早田			
機	55	石田			
機	55	松本			
機	55	中村			
金	55	孝橋			
制	55	太田			
子	55	光成			
情	55	網田			
環	55	福川			
機	56	岩尾			
機	56	島原			
機	56	藤本			
加	56	平田			
化	56	須藤			
子	56	徳永			
情	56	石松			
機	57	山口			
子	57	尾辻			
子	57	川村			
子	57	白水			
子	57	中村			
開	58	片岡			
制	58	島村			
子	58	前田			
開	59	友田			
機	59	近藤			

科	年	氏名	郵便番号	住	所	電話番号
機	59	津曲				
機	59	稗田				
金	59	大井				
情	59	平瀬				
制	60	森				
環	60	井上				
機	61	長木				
機	61	一瀬				
機	61	福島				
開	62	小嶺				
開	62	三角				
機	62	貞苜				
機	62	諸岡				
機	62	山田				
機	62	山本				
開	63	坂口				
機	63	永富				
機 ²	63	小山				
機 ²	63	黒田				
機 ²	63	御領				
金	63	坂田				
金	63	高以 ^来				
化	63	真島				
開	H1	河野				
機	H1	三好				
機	H1	元木				
金	H1	鶴田				
加	H1	古寺				
制	H1	谷口				
制	H1	永淵				
機	H2	山崎				
電	H2	藤井				
加	H2	今泉				
金 ^加	H2	高安				
機	H3	須賀				
機	H3	竹下				
機	H3	福田				
機	H3	山下				
設 ^機	H5	松尾				
設 ^機	H4	山根				
設 ^機	H4	山本				
設 ^機	H4	吉住				
機	H4	内野				
機	H4	宗雲				
機	H5	林				
機	H6	白石				
制	H6	公山				
制	H6	谷尾				
設 ^機	H7	桂				
制	H7	原田				
設 ^機	H8	岡				
設 ^機	H8	小西				
設 ^機	H9	小野				
電	H9	鈴木				
設 ^機	H9	山本				
設 ^機	H9	渡辺				

科	年	氏名	郵便番号	住所	電話番号
機	H9	篠崎			
電	H9	宮城			
設機	H10	小早川			
設建	H10	高橋			
設建	H10	遠山			
設建	H11	井手野			
設機	H11	中本			
設機	H11	中村			
設機	H12	岩本			
設機	H13	賀村			
機智	H14	安倍			
設生	H14	柴田			

特別会員(敬称略)

氏名	郵便番号	住所	電話番号
元部長 新莊 (キ9)			
〃 勝原			
〃 河村			
〃 藤原			
〃 大西			
〃 加藤			
〃 西川			
現部長 原田			
顧問 徳尾			
特別会員 綿貫 (ヤ21)			
〃 佐武			
〃 山本			
〃 香月	〇キ15		
〃 豊福	〇キ15		

不明者 機56大原 機61中村 機H1近藤 設機H5山口 機H5家守 電情H8中澤 設機H5 神谷
設機H8 渡辺

物故者(H11. 11以後) コ21古江 キ21喜多村 カ24真那子 キ25沢井 機II57寺田

OB会役員

役職	氏名	郵便番号	地区	役職	氏名	郵便番号	地区
会長			関東地区	幹事	松田	(テ26)	関西地区
副会長・会長代行	廣田	(電29)	幹事	川崎	(化32)	副幹事	立松 (テ22)
副会長	尾辻	(子57)	副幹事			副幹事	安光 (電32)
			名古屋地区				中四国地区
九州地区			幹事	中野	(キ25)	幹事	上妻 (キ22)
幹事	石飛	(ヤ22)	幹事	原田	(機33)	副幹事	嘉村 (化33)
副幹事	斉藤	(欽33)					

—編集後記—

部史「流星・記念特別号」発刊からはや2年半が経過しました。OB会誌創刊号は、部誌と合同で「流星14号」として発行しました。会長はじめ亡くなられた方が多く、今回は追悼特集のようになってしまいました。

次回は「三郎さん」特集を組む予定です。在部中お世話になったOBも多いと思います。ぜひ当時のエピソードなど、お送り下さい。同期会などがあれば「コメント、写真」などお寄せ下さい。

発行日	平成14年7月7日
発行者	九州工大責善会自動車部 主将 安倍 明専・九州工大自動車部OB会 会長代行 廣田
印刷	岡山市 富士印刷株式会社
編集発送	岡山市 嘉村

加入者名 嘉村

現在の部車、競技用車



かつての部車、練習車



〒703-8267

明専・九州工大自動車部OB会

編集・発送元 岡山市

嘉村